

日本代表に十勝の6人



日本代表として健闘を誓う牛尾、佐藤、太田（前列左から）、志賀葵、伊藤、志賀紅（後列左から）

アイスホッケー女子U18世界選手権

帯広レディース 志賀葵・紅音 伊藤
FTS御影グレッズ 太田 牛尾 佐藤

アイスホッケーの2017 I I H F女子U18（18歳以下）世界選手権トップディビジョン（1部相当）が来年1月7～14日、チェコのプルジェロフ、ズリーンで開かれる。今年1月のディビジョン1（2部同）で優勝し、2年ぶりにトップディビジョンに返り咲いた日本代表には、十勝から中・高生6人がメンバー入りする。選手たちは世界の強豪国との対戦に「自分のベストなプレーを見せたい」と張り切っている。（北雅貴、大野篤志）

2年ぶりの戦い

「ベストのプレー見せる」

△世界女子U18選手権大会概要▽
アメリカ、カナダ、スイス、スウェーデン、チェコ、フィンランド、ロシア、日本の8カ国が参戦する。2ブロックに分かれて予選リーグを行い、日本はチェコ、フィンランド、スイスが入るグループB。

選手は、帯広レディースのDF志賀葵（17）帯三条高2年と同志賀紅音（15）同1年姉妹、FW伊藤優希（16）帯南商高1年、フルタイムシステム御影グレッズのDF太田（16）農高2年、FW牛尾あずき（14）幕別中3年、同佐藤愛梨（14）浦幌中3年、志賀姉妹と伊藤、太田は昨季の優勝メンバー。
志賀葵は3年連続3度目。GK以外のプレーヤーとしては最上級生となり、合宿では主将を任せられた。初めて選ばれた中学3年生のときに、当時高校3年だった床泰留可（とこ・はるか、現SEIB Uプリンセスラビッツ、日本代表）がプレーでチームを引っ張る姿が強烈に印象に残っており、「今の中学3年生と同じように思ってもらえるように頑張る」とキャプテンシーを発揮するつもり。
フル代表「スマイルジャパン」の一員でもあり、1対1に強くなり、パススピードも速くなった。「守りだけでなく得点に絡みたい」と力を込める。

紅音は守備だけでなく力強いシュートが魅力。「攻撃参加も求められていると思う。攻めと守りの区別をしっかりと判断して、貢献したい」と話す。「相手はすべて格上。挑戦者の気持ちで臨み、得点して勝ちたい」
伊藤は初招集の昨季、外国選手のパワーに驚いた。「特にボード際の1対1での圧力がすごかった。この1年間でキープ力で成長したと実感。粘り強いプレーでバックを保持し、「力強いプレーでゴールへ向かっていきたい」と誓う。太田も代表は3年目。ディビジョン1とトップディビジョンとの実力差を体験している。「相手の体は大きいけど、DFゾーンのコーナーでの1対1には負けない。うちのFWはガツガツ攻めてくれるので、自分も攻めに参加したい」と張り切る。

中学生2人は初の代表入り。牛尾は走力を生かしてどんどんとゴールに向かうタイプ。「プレッシャーをかけて、インサイドでのプレーを心掛けた」と外国選手に果敢に挑むつもり。佐藤はスピードとハンドリングに自信を持っている。「体の大きな外国選手の圧力に耐えてシュートを打たない」と体調管理に気を付けながら自分のプレーを出そうと意気込む。
十勝の選手は31日に出発。チェコでの事前合宿を経て、大会に臨む。